



西 中 だ よ り

令和8年度重点目標

なりたい自分をイメージし、
ともに高め合う生徒の育成

令和8年9月30日発行
第 7 号

結果は、ともに。

— 9月1日、私が生徒に伝えた約束 —

① 9月1日、全校朝会で伝えたこと

8月24日、30日ぶりに子どもたちが戻ってきました。日に焼けた顔、少し大人びた表情。その姿を見て、私は2学期の始まりに何を伝えるべきか、考え続けていました。そして9月1日の全校朝会で、子どもたちに一つの約束をしました。

やってみよう。結果は、ともに。

失敗は、一生懸命やった証拠。成功もつまずきも、全員で分かち合おう。

中学生の時期は、失敗が怖くなる年頃です。友だちの目が気になり、間違えることを避けたいくなる。しかし、**挑戦しない毎日からは、何も生まれません。**だからこそ私は、結果を一人で抱えなくていいと伝えました。挑んだ先に何があっても、学校がともに受け止めます。安心して挑める場所であること——それが、西中学校の目指す姿です。

② 子どもたちが、自分で変えたこと

1学期末の各種調査で、子どもたちの確かな成長が見えました。中でも私が驚いたのは、**答案の空欄が大きく減った**ことです。分からない問題を白紙にせず、「ここまでは分かる」と最後まで書きき。誰かに言われたからではありません。子どもたち自身が、諦めない選択をしたのです。それは、粘り強さが育った何よりの証拠です。

もう一つ、心強い変化がありました。「先生は自分の良いところを認めてくれる」と感じている生徒が、ほぼすべてに達したのです。安心できる場所があるから、子どもは挑戦できます。**この土台の上に、2学期の挑戦が始まります。**

③ 9月、生徒が主役になる月

9月は、子どもたちが自分で決める場面が続きました。9月14日の**生徒会選挙**では、後期の学校を担う仲間を、生徒自身の手で選びました。そして9月17日からは、**10月2日の学校祭**へ向けた準備が本格的に始まっています。学級や係で意見を出し合い、時にぶつかりながら、形にしていって日々です。

学校祭の主役は、生徒です。教職員は答えを教えるのではなく、生徒が自分たちで考え、話し合い、決めていく過程を支えます。うまくいかないこともあるでしょう。しかし、**その試行錯誤こそが、最も大きな学びです。**どうか、結果だけでなく、そこに至る過程を見ていただければと思います。

④ ご家庭にお願いしたいこと

お子さんが「こんなことをやりたい」と話してきたら、ぜひ聞いてあげてください。そして、うまくいかなかった日には、「**よくやってみたね**」の一言を。失敗を責めない場所が家庭にあることが、子どもの次の挑戦を生みます。

学校では2学期、**家庭学習**を重点の一つに決めました。あらためて具体的にご案内いたします。短い時間でも、毎日続く形をお子さんと一緒に考えていただければ幸いです。

やってみよう。結果は、ともに。この約束を、保護者の皆さまとも分かち合えたら幸いです。子どもが挑み、大人が支える。うまくいかなければ、一緒に考える。そうやって、この学校を育ててまいります。10月2日の学校祭では、成長した子どもたちの姿をぜひご覧ください。

やってみよう！ つながろう！ ありがとう！

余市町立西中学校 校長 庄司 真人